

メイン・ハンドアウト

「知的プロセスを大切にした高校英語授業のモデルの開発」

(別冊「授業プラン集」を参照しながらお読みください)

1. 生徒の知性を伸ばす英語授業のプロセスの 6 つの原則と授業案の例

(1) 繰り返し味わうに足る、内容・英文ともに豊かな教材を用いる。

本発表は、物語文として O. Henry の The Gift of the Magi、論説文として Steve Jobs の Commencement Address を取り上げた。

(2) リスニングやリーディングの目標を明確にする頂上タスクを設ける。

- a. 物語から自分の好きな部分を選び出し、気持ちを込めてナレーションを行う課題 (三浦、p.61 「頂上タスク 2」)
- b. 物語と類似した場面で、生徒に「あなたならどうしますか」と問いかけて、相互に意見を交換させる (伊佐地、p. 8 の「3. Post-Reading」)
- c. 恋愛物語の主人公になったつもりで、相手に対して感謝の言葉を書く (後藤 p. 34③)
- d. スピーチの内容 (死と生) に関連した内容で、家族にインタビューした結果を発表する課題 (竹内、p.102 の 6)
- e. スピーチのメインテーマと関係した自分の体験を振り返り、それを英文で表現する課題 (對馬、p.111 「Task 3: bitter experience→new breakthrough」) (山本、p. 121 「6. この単元の頂上タスク」)
- f. 学習者の立場から、教材の授業プランを生徒に発案させる課題 (伊藤、当日配布資料)

(3) 読んだ物語について、生徒が感想や意見を出し合うプロセスを含める。

- a. 各パートの最後や Post -reading で生徒の意見を求める発問。(後藤、p.31⑨, p.32⑧, p.33⑨, p.34② ; 伊佐地、pp.3-9 ; 山本、p.121 「6.この単元の頂上タスク」)
- b. 頂上タスクとして、物語の結末の仕方について生徒の意見を求める発問 : (三浦、p.65 「頂上タスク 1」)

(4) 読んだスピーチについて、生徒が疑問・意見・対案等を出し合うプロセスを含める。

- a. スピーチの内容について、意見を交換する活動 (柳田、p. 153 「2nd period と 4th period の授業展開 : 自分の好きな分を 2~3 文選び、なぜその文章が好きなのかを英語で簡潔にパートナーに話す」) (大橋、p. 162 「頂上タスク (2)」)
- b. スピーチの評価が書かれた英文を読み、その評価について意見を交換する活動 (亘理、p.145 の(2)(3))

(5) 生徒の創意工夫に満ちた調べ学習によって授業内容を深化・拡充する。

- a. 読んだラブ・ストーリー (The Gift of the Magi) を、別のストーリー (A Marriage of Convenience) と比較して、幸せな結婚について考えさせる活動 (加藤、p.12 の「7th period の授業展開」)
- b. 物語の原著版と、それを平易に書き直した retold 版を比較対照することにより、双方をよ

- り深く理解する活動（三浦、p. 61 「頂上タスク 3」）
- c. Jobs のスピーチの背景的情報を他の人物が物語った記事を読み、内容のさらに深い理解をはかる活動（亙理、pp.143-145）
 - d. スピーチを行った人物 (Jobs) の人となりや業績について生徒が調べ、スピーチのより深い理解に貢献する情報をクラスに報告する活動（伊藤、当日配布資料）
 - e. 物語と関連した内容 (gift) について、自分の体験と結びつけて発表する課題（永倉、pp. 47-48 「5th period の授業展開」）

(6) 意味ある課題を通して、重要文法事項を spiral 的に学べるようにする。

- a. Jobs スピーチの構成分析を行いディスコースグラマーの理解を養う。さらに、その応用として、実際とは異なるタイプの聴衆に向けたスピーチの構成を考えさせる活動（亙理、pp.146-150 「論理展開図」）
- b. スピーチ原稿のピア・エディティングと書き直しを通じて、教材中の表現や文法事項を定着させる効果もある活動（柳田、pp. 151-160）
- c. Jobs スピーチ理解のポイントである文法事項（ここでは仮定法）を使用して自分の体験を振り返り、表現させる活動（関、pp. 85-86, 89）。また、内容的（生と死）に関連した'Tomorrow Never Comes'の詩を参照して、テーマへの思考を深めると共に、その詩に頻出する仮定法表現を更に勉強する（對馬、pp.117-119）。

2. 特色のある内容理解活動の例

- a. 3つのタイプの読解発問（事実発問・推論発問・評価発問）を用いて、段階的に深い読みへと導く指導（伊佐地、p.4）
- b. 視覚補助媒体（絵・写真）を活用した英語が苦手な生徒が多い高校での指導（後藤、p.31）（永倉、p. 41）
- c. 内容を理解する上で重要な語句をリストアップし、それに対応する英英辞書の説明とを線で結ぶ活動を通じて、読解を支援する（関、p. 94, 98, 100）
- d. 多様なアングルからの活動の積み上げにより、テキストに繰り返し取り組ませる指導（山本、pp. 120-138）
- e. グラフィック・オーガナイザーを用いた指導（亙理、pp. 146-150 の論理図；山本、p.130；関、p.85）
- f. タスク型の授業で、必ずしも必要ないのだが和訳を欲しがらる生徒のための、フレーズ切り対訳シート（永倉、pp. 51-59）

3. まとめ

英語力が高い高校生と苦手な高校生 コミュニケーション重視の授業 まず内容理解
教師の個性 実践を通じての授業改善（對馬、山本、伊藤） 単なるスキルの向上を超えた指導（竹内、後藤、柳田 など） 評価方法